



## 「Dr 林の足のお悩み相談室」からの抜粋

### 「足底のイボ」

Q:「先日、足の裏に『たこ』のようなものができていて、医師にかかったら『足底のイボ』という診断を受けました。見た目はどう見ても『たこ』のようなのですが、『イボ』とはどう区別がつかののでしょうか？ウイルス性のものと聞いたのですが、他の人に移したりするのでしょうか？また、予防法はありますか？」

A:「足底のイボ」は、英語では「Plantar wart」といって、他の体の部位にもできるイボと比べてとても治りにくいタイプです。というのは、足の裏にかかる体重によって、歩くたびに押されて「平ら」に押しつぶされて、そのまわりを厚くなった皮膚が囲んでしまいます。そればかりか、歩行時に受ける地面からのショックが足の裏にかかるごとに、ウイルスが表皮の「深部」の方へも侵入してしまうからです。

足底いぼは体重がかかって、歩くたびに随時押されると痛みがあつたりもします。

見た目は、「うおのめ」や「たこ」と似ています。ただ、違いはイボの場合、ナイフでそいだけて除去したりすると、「ピンポイント出血」といって針先のような細かい多数の点から出血があつたりします。また、その部分は指紋も消えたりしています。

ウイルス(ヒトパピローマウイルス)感染が原因のため、このウイルスの好む環境である暖かくてジメジメした環境(お風呂のバスタブや公共のプールサイドなど)を裸足で歩いていると感染しやすいです。ですから、子供から親への感染もありますし、片足からもうひとつの足に自己感染する場合があります。免疫力が劣っている方や足の裏に傷がある方、そして子供が感染しやすい層です。具体的なメカニズムは知られていないのですが、風邪を引きやすい人引かない人があるように、このウイルスにかかりやすい「体質」のひとがいるそうです。

予防としては、1)公共の場ではサンダルを履き、裸足で歩かない、2)靴下を頻繁に履き替えて足の乾燥を促す、3)イボを手でいじらない、4)足の裏を定期的にチェックする(特に子供の場合)ことです。

